

No.5

発行日 2007.6.20

神奈川大学教職課程指導室

## 学校ボランティア通信

### 栗田谷中でのボランティア

応用化学科 4年 北村 一真

内容：

●栗田谷中でのボランティア

北村 一真

●戸塚中にボランティアに行つて

木村 正人

●学校ボランティアを経験して

寺澤智恵美

●学校ボランティア

小野塚俊輔

春休みから栗田谷中学校でボランティアを始めて3ヶ月、実際にボランティアとして訪問した回数は10回程度にしかなりませんが、とても多くのことを勉強させてもらいました。なかでも、この学校ボランティアをやつて最もよかったと感じるのは、大学の授業では経験することの出来ない、生徒と直接触れ合える瞬間で、とても多くのことを勉強させてもらえるチャンスになりました。

たとえば、生徒と元気にコミュニケーションをとることや、生徒たちを一生懸命に見て生徒を知ること、生徒に注意をするときの方法など、改めて学ぶことができました。どれも大学の普通の授業や特別講義で話を聞いたことですが、これらを現場に出でいきなり実践することは難しいことだと思いました。ボランティアを通して勉強させてもらえたことは、これらを思い返し実践していくことで、教師という立場になったときに何をすべきかが分かってくるのではないかと、ということです。

ボランティアとして初めて関わった授業においては、生徒と関わったのは、演習中にペンが止まっている生徒にアドバイスをしたときと、生徒の質問に答えているときだけでした。わた

しは塾でアルバイトをしているので、授業の内容で躓いている生徒にアドバイスをすることにそこそこの自信を持っていました。そのためか、初めての授業では勉強のことばかりを見ていて、肝心の生徒たちに目が向いていませんでした。栗田谷中学校の先生にも、もっと生徒たちに声をかけていよいよ、と言われてしまいました。そのようなことがあったので、授業のほかにも、廊下ですれ違ったときや休み時間などに、積極的に生徒とコミュニケーションをとるようになりました。

最近では、前にも増して生徒から声をかけてきてくれます。おかげで先に声をかけることでは負け気味ですが、ますます教師になりたいという気持ちが強くなっています。最初のころは教師になるための勉強のつもりで行っていましたが、今では元気をもらいに行っている気がしています。学校ボランティアに行く機会に恵まれて、本当に良かったです。



## 戸塚中にボランティアに行つて

自治行政学科 2年 木村 正人

私は毎週戸塚中学校に行っています。きっかけは教職用の掲示板でした。私はボランティアをしていたことが少しあるくらいですが、中学校や小学校で授業のアシスタントといったものはやったことがなくて、とても興味がありました。

今私は教職を取っていて、将来は教員になりたいと思っています。教育や学校、地域といったことに興味があり、今の学科にプラスして教職を取っています。教育実習に行くのは4年生になってからなのでそれまでは、学校に関わることができないと内心思っていました。でも学校ボランティアという存在を知ってからは、早くやりたいという気持ちが強くなっていきました。

4月の最後の週の水曜日にスーツに身を包み、戸塚中学校の校長先生の面接を受けました。駅からの距離が少しあったため汗びしょりでした。緊張して頭が真っ白になってしまいました。校長先生からその場で、内定をもらいました。もう一人、同学年の女子も内定をもらい、曜日も一緒になったので、毎週一緒に活動しています。

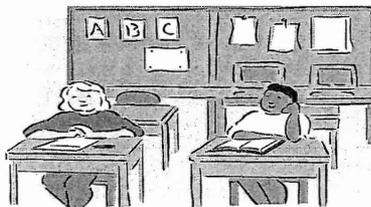
5月の最初のボランティアの日。この日も最初だからスーツで行きました。朝早く着いて控え室で待っていると、校長先生から「朝、全校集会をやるからそこで、君たちを紹介するね。」と突然言われてびっくりしました。全校で生徒が500人くらいいるところで、壇上に上りました。足が震えていました。その後相談室で、保健室登校の子たちと初対面。15歳と14歳の女の子です。そのくらいの年頃の子たちは扱いが難しいと先生方などから聞いていたので、すごく気を使いました。でも実際は年も近いこともあり、意外と話が合いました。でも少し年代の差を感じました。とっても明るく笑顔が素敵な子たちで、なぜ保健室登校なのかわかりません。

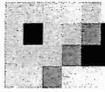
まだ4回程しか行っていませんが、自分の妹のように感じています。「勉強を教えて」と

か、「修学旅行どこ行ったの？」など質問もしてきます。心を開いてくれたかなと思っています。保健室の先生とも仲良くなりました。若い先生で、最近では私の方が相談に乗ってもらったりしています。保健室にも顔を出すようにして色々な生徒と触れ合うようにしています。ある日体育祭の練習で怪我をした生徒が保健室に運ばれてきた時に、現場の対応の速さに驚きました。「これが現場か」といった感じでした。

中間試験の試験監督もやらせていただきました。もちろん責任者の先生も一緒です。中学1年生の教室にいきました。とっても可愛い子たちでした。手を上げて私や先生に答えを聞きだそうとする子、鉛筆をよく落とす子、見直し終わって寝ている子、など様々な生徒がいました。見ていて自分の中学生の頃がとっても懐かしかったです。現場に行っているだけで勉強になります。

「相談室登校の子たちも、いずれは普通の教室に行かせなければいけません。だからと言って強制的に教室に行けというのはいいけません。でもずっと相談室にいるわけにもいかない。自分の居場所があるというのはいいことだと思う。私たちの仕事は教室にその生徒たちが行くのをサポートすることです」とおっしゃった校長先生の言葉が印象に残っている。





No.5

## 学校ボランティアを経験して

人間科学科 2年 寺澤智恵美

戸塚中学校にボランティアとして行くようになってから一ヶ月たった。学校ボランティアをやったのが本当によかったと思う。初日に全校朝会でみんなの前で挨拶をしてからあっという間に一ヶ月がたった。毎週月・木曜日の二回、行く度に生徒や教職員の方と触れ合うことができ、とても楽しい。それと同時にいろいろなことを考えさせられる。毎回活動日誌を書きながら、振り返っている。

五月は特に保健室登校の生徒、個別支援学級の生徒たちと関わる時間が多かった。はじめはどう接したらいいかなど、不安な気持ちが大きかったけれど、今ではたくさん話せるようになった。最初は、自分からいろいろなことを話して自分を知ってもらうことが大切だと思う。生徒の方からもたくさん話しかけてもらえるようになってとても嬉しい。勉強を教えることも多いけれど、どうやったらもっとわかりやすく伝わるかなど、いつも考えさせられる。自分では理解していることでも、それを教えるという事は難しい。私自身もっと勉強しなければいけない。生徒たちは、自分と向き合って頑張っていると思うし、いろんなことで悩んでいると思う。話しているとそう感じる。生徒のいろんな部分に気づいてあげて、私にできることをやっていきたい。

学校では、教職員の方やスクールカウンセラーの方からも学ぶことがたくさんある。生徒への接し方や勉強の教え方を実際に目で見ることができ、生徒のことや学校のことを話してくれる。以前校長先生から不登校の生徒についての話を聞いた。全国で不登校の生徒はだいたいクラスに一人いるくらいの人数で、戸塚中学校もそのくらいの生徒が不登校だということを知った。この不登校については、これからもっといろんな角度から考えていきたい。

大学の授業だけではなく、実際に学校という場所に自分が入っていくことでいろんなこ

とに気づくことができる。毎回新しい発見やできごとがあり、自分にとってとてもいい経験になっている。会ったときの挨拶や寺澤先生と呼ばれること、また勉強を教えてほしいと言われた時はとても嬉しかった。私には、まだ知らないことや気づいていないことがたくさんあると思う。またこれから授業や部活動、行事など新しい体験もさせてもらう。私がいつも学校に行くことが楽しみであるように、誰にとっても学校が楽しい場所になるといいなと思う。これからも、生徒や教職員の方々からいろんなことを学んで、自分の中に吸収し成長していきたい。



## 学校ボランティア ～ストレンジャーからATへ～

2006年卒業 小野塚俊輔

私は昨年度3月から週1回ほど、英語科のATとして栗田谷中学校にお世話になっています。

ATとしての活動は、授業参観が主なものですが、初めて参観するクラスでは、自己紹介を兼ねた英語スピーチをする機会をいただけます。たったそれだけのこともかもしれませんが、それぞれの学年の既習事項を踏まえた上で自分を知ってもらうことは、想像以上に難しいものです。私の場合そこに生来の人見知りがかかるため、大変困難な作業となります。また、スピーチに対する生徒の反応はとて素直なもので、生徒の興味・関心を引く内容でなければ質問してもらえません。1分足らずのスピーチですが、英語教師としての自分の力量を十分に測ることができるものだと思います。

最近では、英語の授業だけでなく「国際クラス」の授業にも参加させていただいています。このクラスは日本語を母国語としない生徒を対象に開かれており、タイ人と中国人の生徒数名が学んでいます。ここでは少人数クラスということに加え、生徒たちの底抜けの明るさが活発で楽しい雰囲気を作り、先生はその中で丁寧かつテンポの良い授業を展開していきます。また、先生方は日本語指導のみならず、生徒の母国の文化に精通し日本との比較を通して理解を促すなど、様々な視点からの指導をされています。国際化に伴い、これからの学校現場では外国人生徒への日本語教育は必須のことになると思うので、国際クラスに参加できることは非常に貴重な経験だと考えています。

これまで10数回ほどの経験から感じたことは、生徒との距離を縮めることの難しさです。最近まで、なかなか自分から話しかけることができず生徒とコミュニケーションを取ることができませんでした。それどころか、生徒たちから話しかけられることを待っているような状況で、当然そのような姿勢では、良い関係を築けるはずがありません。すれ違いざまに「誰あの人？」といった声が聞こえることもしばしばでした。生徒たちからしてみれば、首から提げている名札を見るまでは、私は完全なストレンジャーなのです。

そんな状況を打開すべく、最近では授業参観中の机間巡視等でできる限り声を掛け、私という人間を知ってもらうことを心がけています。まだまだ生徒との会話は少ないですが、地道に続けていきたいと思っています。まず、当面の目標は全員に自分の存在を認識してもらおうこと。そして徐々に信頼関係を築いていければいいと思います。

正直なところ、もう少しスムーズに生徒と仲良くなれると考えていましたが、自分の甘さを思い知らされました。同時に、人間関係形成という、教師の根幹を成すべき資質が自分に不足していることにも気付かされました。

こういった貴重な体験をさせていただけることに感謝し、これからも活動を通して生まれた課題は活動を通して一つずつクリアしていきたいと思っています。

### 神奈川大学 教職課程指導室

電話：045-481-5661（内線4228）  
FAX：045（413）4154 E-mail: educ@kanagawa-u.ac.jp